

## ◆ VE全国大会『VE／VD論文』応募原稿執筆ガイド◆

VE全国大会『VE／VD論文』の応募原稿は、このガイドや別添の原稿執筆要領に従ってご執筆ください。**赤字の部分は、特にご注意いただきたい点です。**

1. 原稿は、A4判の白紙に、横書き・**白黒(図表はカラー可)**でご執筆ください  
(MS-WORDでフォントは明朝体、フォントサイズは10.5)。原稿の枚数は、図表・写真を含めて**10頁以上14頁以内**（1枚につき横40字×縦40行）とします。
2. 図表・写真は鮮明なものを見やすい大きさで本文中の適当な位置に挿入し、**文字や数字等がはっきりと読めるように**してください。図表・写真には図表1・写真1といった通し番号を付け、何を示している図表・写真かがわかるように**タイトルを付記**してください。
3. 原稿執筆の手順は次の通りです。
  - (1) 1枚目の最初に、論文の題名（日本語・英語）と執筆者全員の社名、所属・役職名、氏名、VE資格名を記載してください。その後に「論文の要旨（目安としては横40字×縦10行程度）」と情報検索に役立つ「キーワード（日本語で5語くらい）」を記述してください。
  - (2) キーワードの次に、本文を続けてください。読者にとって理解しやすい論文となるよう、次の点を心掛けていただきたいと思います。

- ①論旨を明確にする。
- ②内容を論理的に構成する。
- ③論述内容に整合性をもたせる。
- ④用語はわかりやすく定義して使用する。同じ意味なら統一、別の意味なら区別を明確にする。業界用語や社内用語は使わない。
- ⑤考え方だけではなく、その根拠や実施方法、背景等も具体的に述べる。考え方については従来との違いを強調し、その有効性等を事例で具体的に示す。
- ⑥図表をどのように見れば良いのか又は図表と本文の関わり等がわかるよう、図表についても簡潔な説明をつける。
- ⑦最後に結論を記述する。

**本文中の一般的な（既知の）説明は、最小限**にとどめてください。

- (3) **執筆者の社名等は題名や本文、図表に記載せず**、必要な時は「当社」や「A社」等といった表現を使用してください。**執筆者の特定が可能な写真の掲載もしない**よう、お願いします。公平な審査が行えるよう、審査委員には原稿1枚目の会社名及び所属・役職名、氏名を消した原稿を送っています。

(4) VE／VD論文の評価ポイントは、以下の通りとなります。

**①新規性：VE／VDの領域からみて**

- ・問題設定、適応領域の新しさがあるか。
- ・発見、知見、事例の新しさがあるか。
- ・理論、実験方法、手法、調査法の新しさがあるか。
- ・要素、システム、用途、サービスの新しさがあるか。
- ・評価法、調査結果、デザインの新しさがあるか。

VE/VD の新規性の視点例

- \* 機能分析に関する新手法の開発・提案など
- \* 機能本位に基づくアイデア発想手法の開発・提案など
- \* 代替案(設計案)の価値設計・保証に関する手法の開発・提案など
- \* VE 教育や VE 管理に関する手法の開発・提案など

**②有用性：VE／VDの領域からみて**

- ・学術、技術、社会的課題に応えているか。
- ・実用化、改良、改善上の成果があるか。
- ・技術移転、波及効果、啓発効果があるか。
- ・理論や方法の拡張、体系化、視点の転換の成果があるか。
- ・利用効果、導入過程、実態調査に有用であるか。

VE/VD の有用性の視点例

- \* 機能分析に関する手法の工夫など
- \* 機能本位の創造思考(アイデア発想)法に関する工夫など
- \* 代替案(設計案)に価値保証に関する工夫など
- \* VE 教育や VE 管理上の工夫など

**③適性：以下の要件を満たし、論文として完結していること**

- ・内容に誤りやあいまい性がない。
- ・研究目的が明確に述べられている。
- ・論旨の展開が明確である。
- ・研究成果の意義が明確に述べられている。
- ・従来研究との関連が明確に述べられている。
- ・関連する文献が適切に引用されている。
- ・図表、文体が簡潔かつわかりやすい。
- ・実験条件、方法が明確に述べられている。
- ・VE(価値工学)領域との関連が深く重要度が高い。
- ・将来性の期待される研究である。

主に上記評価項目により総合的に審査いたします。

(5) 原稿が完成したら、「意味が不明確なところはないか」「誤字・脱字はないか」

「表記は統一されているか」等を確認してください。

(6) 上記(5)の確認が終わったら**右下の隅にページ番号**を付け、4月17日(金)9時までに弊会事務局の担当者へ届くよう、原稿を電子メールか郵便でお送りください。

4. 図表・写真を含め原稿は一切お返しできませんので、提出後に必要となる可能性がありそうな場合は、事前にコピーをとっておいてください。
5. 原稿の差し替えは4月17日の9時までなら可能です。それ以降は原則できません。ただし、審査の結果によっては、弊会『論文審査部会』から加筆・修正を要請することがあります。
6. 乱雑な原稿や、本文又は**図表が不鮮明で文字や数字等が読めない原稿**、所定の枚数に足りない又は所定の枚数を超えている原稿は、審査の対象外になることがあります。
7. **このガイドや別添の執筆要領に準拠していない原稿も、上記の6と同じ扱い**になることがあります。執筆要領も必ず参考にしてください。
8. 他の大会や、学会誌等で発表済みの論文で応募の場合は、本文や図表に加筆や修正をして内容を充実・発展させてください。**本文や図表がその既発表論文と全くあるいは殆ど同じ場合は、上記の6と同じ扱い**になることがあります。

以上